

# COMPANY RESEARCH AND ANALYSIS REPORT

|| 企業調査レポート ||

## ソフト９９コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 7 月 14 日 (月)

執筆：客員アナリスト

佐藤 譲

FISCO Ltd. Analyst Yuzuru Sato



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

## 目次

|                      |    |
|----------------------|----|
| ■ 要約                 | 01 |
| 1. 2025 年 3 月期の業績概要  | 01 |
| 2. 2026 年 3 月期の業績見通し | 01 |
| 3. 中期経営計画の進捗と今後の見通し  | 02 |
| 4. 株主還元策             | 02 |
| ■ 事業概要               | 03 |
| 1. ファインケミカル事業        | 05 |
| 2. ポーラスマテリアル事業       | 07 |
| 3. サービス事業            | 07 |
| 4. 不動産関連事業           | 08 |
| ■ 業績動向               | 08 |
| 1. 2025 年 3 月期の業績概要  | 08 |
| 2. 事業セグメント別動向        | 09 |
| 3. 財務状況と経営指標         | 13 |
| ■ 今後の見通し             | 15 |
| 1. 2026 年 3 月期の業績見通し | 15 |
| 2. 中期経営計画の進捗状況       | 16 |
| ■ 株主還元策              | 20 |

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

## 要約

### ファインケミカル事業とポーラスマテリアル事業を両輪に成長目指す

ソフト99コーポレーション<4464>は、カーワックスや洗浄剤、補修材などのカー用品の大手である。子会社で展開するポーラスマテリアル事業は半導体製造用の精密洗浄材で高シェアを持ち、医療分野への展開も推進している。そのほか、子会社で自動車整備・鈑金事業、自動車教習事業、SI 事業（旧 温泉事業）なども展開している。既存の主力製品において高い市場シェアと収益力を持ち、強固な財務基盤を構築していることが強みとなっている。

#### 1. 2025 年 3 月期の業績概要

2025 年 3 月期の連結業績は、売上高で前期比 0.4% 減の 29,742 百万円、営業利益で同 12.7% 増の 4,033 百万円となった。売上高はファインケミカル事業の海外向け他社製品の仲介取引から撤退したことや SI 事業で 1 店舗を閉店した影響で若干の減収となったものの、生成 AI 市場の急成長を背景に、付加価値の高い先端半導体製造ライン向け精密洗浄材や HDD 向け研磨剤などを中心にポーラスマテリアル事業の売上高が拡大したほか、一過性の原価低減効果※（約 1.8 億円）も加わったことで、営業利益は 3 期ぶりに過去最高を更新した。

※ 外注費の一時的な減少。

#### 2. 2026 年 3 月期の業績見通し

2026 年 3 月期の連結業績は、売上高で前期比 1.9% 増の 30,300 百万円、営業利益で同 10.0% 減の 3,630 百万円を見込んでいる。売上高は主力のファインケミカル事業が同 3.3% 増、ポーラスマテリアル事業が同 0.8% 増と堅調推移を見込むものの、利益面では、前期の一過性原価低減効果がなくなることや、2024 年 12 月より稼働開始した新基幹システムの減価償却費や運用費等の増加（約 2 億円）、カー用品の広告宣伝費用の増加（1 億円強）などが減益要因となる。SI 事業で閉店した尼崎店跡地には IR・インバウンド需要をターゲットとした飲食店モールを建設中で第 3 四半期にオープン予定だが、業績計画には織り込んでいない（店舗及び賃貸収入）。半導体向け精密洗浄材は高水準の引き合いが続いており、前期からは中国向けも代理店経由での販売が伸びるなどシェアが拡大傾向になっていると見られ、今後の半導体市場の動向次第では上振れする可能性も十分にあると弊社では見ている。

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

## 要約

## 3. 中期経営計画の進捗と今後の見通し

2024 年 3 月期からスタートした 3 ケ年の中期経営計画では、2026 年 3 月期の業績目標として、売上高 31,700 百万円、営業利益 3,780 百万円を掲げていた。当初目標に対して売上高、営業利益ともに今回引き下げた格好だ。ポーラスマテリアル事業は生成 AI 市場の拡大による先端半導体向けが伸長し、営業利益が当初目標を大きく上回る見通しとなったが、ファインケミカル事業が海外向け他社製品仲介取引の撤退や家庭用製品の販売苦戦、一般消費者向けカー用品の販売強化に向けた広告宣伝費用の積み増し等で売上高、営業利益とも当初目標を下回る見込みとなったことが要因だ。ただ、重点施策の 1 つとして掲げていた「海外展開強化」については、ポーラスマテリアル事業だけでなく一般消費者向けカー用品についても自社製品で 2025 年 3 月期は約 14 億円と規模はまだ小さいものの、欧州、南米向けを中心に本格的に伸び始めるなど、今後の成長が期待できる状況となっている。2027 年 3 月期以降、ファインケミカル事業では海外向けカー用品のほか、家庭やスポーツ市場での需要開拓を進め、またポーラスマテリアル事業では引き続き半導体向け精密洗浄材を成長ドライバーとして着実な成長が期待される。

## 4. 株主還元策

株主還元については、連結営業利益の 25% を目安に累進的配当を実施することを基本方針とし、2025 年 3 月期は 1 株当たり配当金が前期比 2.0 円増配の 43.0 円（還元率 29.2%）と 10 期連続の増配を実施した。2026 年 3 月期も同 4.0 円増配の 47.0 円（同 33.4%）を予定している。また、資本効率改善施策の 1 つとして 2026 年 3 月期までの 3 年間で合計 700 百万円程度の自己株式取得を行うことを発表しており、2023 年 5 月から 2025 年 4 月までで、572 百万円の自己株式取得を実施している。同社の 1 株当たり純資産は 2025 年 3 月期末で 2,630.29 円、PBR が約 0.6 倍と純資産価値を割れた状況が続いており、企業価値向上に向けた取り組みの 1 つとなる。

## Key Points

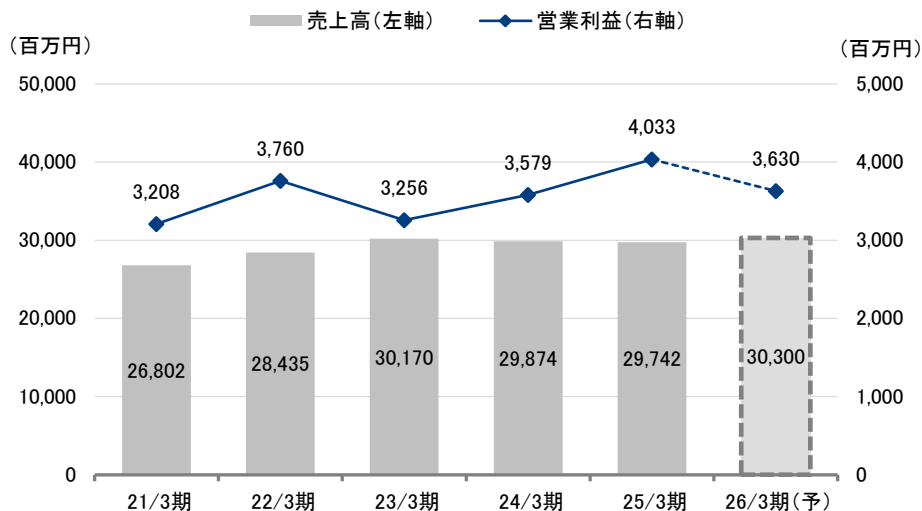
- ・ 2025 年 3 月期はポーラスマテリアル事業がけん引し、3 期ぶりに最高益を更新
- ・ 2026 年 3 月期は先行投資や一過性の原価低減効果はく落で減益見込みだが保守的な印象
- ・ 海外向けカー用品と半導体製造ライン用産業資材の今後の成長に期待
- ・ 2026 年 3 月期は 11 期連続の増配を予定、自己株式取得枠も残す

ソフト９９コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

要約

### 業績推移



注：22/3 期より「収益認識に関する会計基準」等を適用  
出所：決算短信よりフィスコ作成

## 事業概要

### ファインケミカル事業とポーラスマテリアル事業で収益の大半を占める

同社は 1954 年（昭和 29 年）創業の自動車用、家庭用ケミカル用品の製造販売会社で、M&A も活用しながら事業領域を拡大してきた。現在、グループの連結子会社数は 9 社で、2025 年 3 月末時点の従業員数は 827 名となっている。事業セグメントとしては、ファインケミカル事業、ポーラスマテリアル事業、サービス事業、不動産関連事業の 4 つで区分している。

ソフト９９コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

# 事業概要

## 事業セグメントの分類とグループ会社

| 事業セグメント   | 事業内容                        | 会社名                                |
|-----------|-----------------------------|------------------------------------|
| ファインケミカル  | 一般消費者用製品（自動車向け・家庭用品等）       | （株）ソフト９９コーポレーション                   |
|           | 業務用製品（自動車向け、その他産業向け）        |                                    |
|           | 海外事業                        | 上海速特 99 化工有限公司<br>（株）ソフト９９コーポレーション |
|           | 自動車用品輸入・販売                  | （株）アンテリア                           |
|           | タイヤ空気圧監視装置の企画・開発・販売         | （株）オレンジ・ジャパン                       |
| ポーラスマテリアル | 電子機器・ソフトウェア開発               | （株）ハネロン                            |
|           | 産業資材（ハイテク産業向け精密洗浄・研磨・濾過用製品） | アイオン（株）                            |
|           | （医療・衛生管理用品）                 | アイオン（株）、アズテック（株）                   |
| サービス      | 生活資材（自動車、キッチン、化粧、スポーツ等用品）   | アイオン（株）                            |
|           | 自動車整備・钣金                    | （株）ソフト９９オートサービス                    |
|           | 自動車教習                       | アスモ（株）                             |
| 不動産関連     | 生活用品等企画販売                   | （株）くらし企画                           |
|           | 不動産賃貸                       |                                    |
|           | 温浴施設運営                      | （株）ソフト９９コーポレーション                   |
|           | 介護予防支援                      | アスモ（株）                             |

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

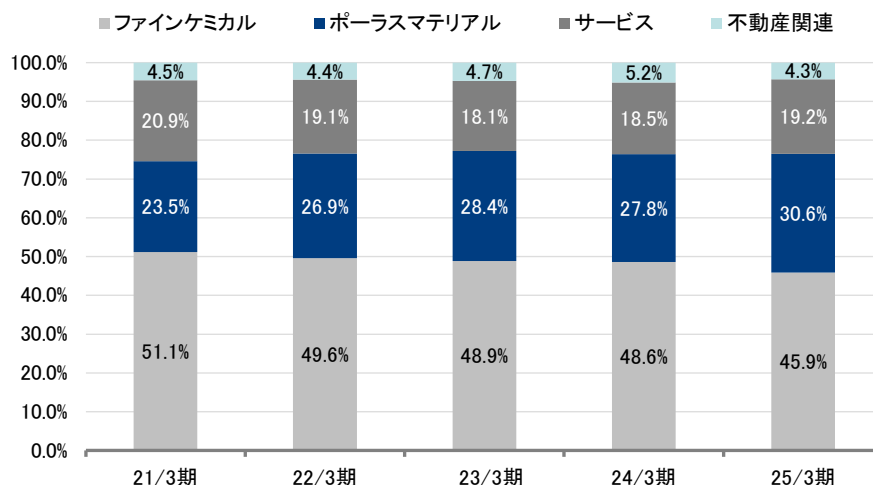
直近 5 期の事業セグメント別構成比を見ると、売上高はファインケミカル事業とポーラスマテリアル事業で全体の 7 割強を占め、ここ数年はファインケミカル事業の構成比が緩やかに低下し、ポーラスマテリアル事業の構成比が上昇傾向にある。また、セグメント利益の構成比では、ファインケミカル事業とポーラスマテリアル事業で 8 割強を占めており、構成比は売上高と同様の傾向で、2025 年 3 月期はファインケミカル事業の 45.7% に対してポーラスマテリアル事業が 41.7% と肉薄する状況となっている。半導体市場の成長に伴いシリコンウエハーの回路形成プロセスの一部である洗浄工程で用いられる精密洗浄材が伸びていることによる。なお、サービス事業や不動産関連事業などそのほかの事業についても安定して収益を得ており、バランスのとれた事業ポートフォリオになっている。市場別売上構成比では、自動車分野向けが 5 割強（2025 年 3 月期）を占める主力市場となっている。

ソフト99コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

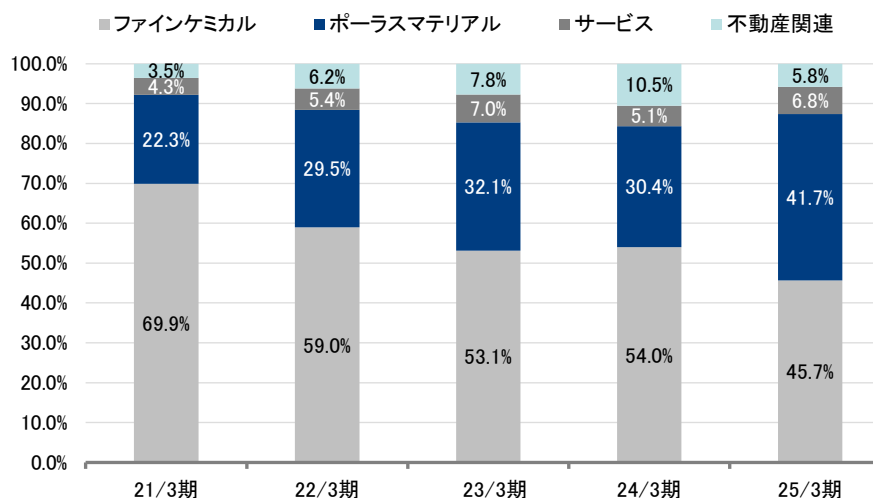
# 事業概要

## セグメント別売上構成比



出所：決算短信よりフィスコ作成

## セグメント別利益構成比



出所：決算短信よりフィスコ作成

## 1. ファインケミカル事業

ファインケミカル事業は大きく分けて、一般消費者向けに販売されるカー用品（ボディケア製品、ガラスケア製品、リペアグッズ等）や家庭用品（メガネケア製品、クリーナー等）、自動車ディーラーや自動車美装業者、あるいはその他業界向けに販売される業務用製品（コーティング剤等）のほか、海外事業（主にカー用品）、タイヤ空気圧監視装置（以下、TPMS）の企画・開発・販売、電子機器・ソフトウェア開発、その他（輸入販売・樹脂容器販売含む）の7つに区分される。2025年3月期の売上構成比は、一般消費者向けカー用品が全体の61.6%を占め、次いで業務用製品が15.8%、海外事業が11.3%、家庭用品等が5.8%などとなっている。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読みください。

Important disclosures and disclaimers appear at the back of this document.

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

# 事業概要

一般消費者向けカー用品の市場シェアを見ると、カーワックスを中心としたボディケア分野で3～4割となっている。競合大手は(株)プロスタッフや(株)ウイルソン、シュアラスター(株)などで、同社を含めて4～5社で競っている。また、ガラスケア分野は、撥水剤において8割弱の市場シェアを持ち、雨天でも視界を確保するガラスコーティング剤「ガラコ」シリーズが高い支持を集めている。競合は(株)錦之堂やシーシーアイ(株)などがある。リペアグッズ(補修材)は約6割の市場シェアを持ち、市場は同社と武蔵ホルト(株)の2社で寡占市場となっている。ここ数年はホームセンターなどでPB商品が増えているが、トップシェアを握る同社には影響がほとんどなく、2位以下のメーカーとPB商品が競合する格好となっているようだ。

海外事業では主に中国や東アジア、東南アジア向けに、現地代理店経由で一般消費者向けカー用品や業務用製品の販売を展開し、ここ数年は欧州各国やインド、ブラジル等の新市場の開拓にも注力している。

業務用製品は、主にコーティング剤を自社ブランドにより自動車美装業者向けに販売しているほか、自動車メーカーやディーラー向けにOEM製品としても販売している。また、飲料用自動販売機や船舶、鉄道車両など、自動車業界以外にも販売しており、1割弱の比率を占める。同社製品は、耐久性能や品質面での評価が高く、外車専門ディーラー向けで多く採用されている。業務用コーティング剤の競合としては、自動車メーカー・ディーラー向けで中央自動車工業<8117>のシェアが高い。また、2回目以降のコーティング費用を低価格で済ませたいユーザー向けには、KeePer 技研<6036>がガソリンスタンド等を通じて販売している。

家庭用製品ではメガネケア製品で業界トップシェアを確立しているほか、各種衛生管理用品の製造販売を行っている。TPMSの企画・開発・販売では、国内の運送事業者向け(トラック・バス)を中心に開発販売している。乗用車向けOEM製品も手掛けているが、国内で搭載している車種はほとんどなく同社の売上構成比も9割がトラックなどの運送事業者向けで占められている。TPMSとは、タイヤ内の空気圧や温度をセンサーで常時監視し、異常が発生した場合に運転者に通知するシステムで、エアバルブと一体化したセンサー付き発信機をホイールに組み付け、運転席に設置した受信機に無線で信号を送信、モニタに数値データ等の情報を表示する。トラック運送事業者などは、車体の不具合に起因する交通事故を未然に防止するため、運行前点検の厳格化が指導されており、タイヤ空気圧も点検項目となっている。TPMSを搭載すれば点検作業が省力化でき、走行中の「安心・安全」にもつながる。このため、ここ2～3年で主に長距離トラックやトレーラーの運送業者向けに普及が進んでいる。運送会社ではドライバー確保のため安全な環境整備に取り組んでおり、TPMSもそのツールとして導入されている。

電子機器・ソフトウェア開発では、主に工場の受変電設備や道路・河川の状況を計測・制御するための遠隔監視システム、コインパーキングの緊急電話システムなどを制御するための組込みソフトウェアの開発・販売を行っている。なお、2024年11月に同社初のスマホ完結型キャッシュレス決済システムを導入した洗車場「ALAUDAY」1号店を東大阪市にオープンしたが、場内管理システムやスマートフォンアプリは(株)ハネロで開発したものとなっている。

ファインケミカル事業の直近5年間の営業利益率は、10%台で安定して推移している。一般消費者向け市場で高いシェアを獲得していること、利益率の高い業務用製品の販売が着実に伸びていることが要因と見られる。海外事業の収益性に関しては他社製品の仲介取引が含まれていることもあり低水準だったが、2025年3月期で仲介取引から撤退しており、今後は利益率も改善するものと見られる。また、TPMSの企画・開発・販売や電子機器・ソフトウェア開発の損益への影響は軽微となっている。



ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

# 事業概要

## 2. ポーラスマテリアル事業

子会社のアイオン（株）で展開するポーラスマテリアル事業は、1999 年にカネボウ（株）から譲り受けた事業で、アイオンはポリビニルアルコール（PVA）素材をベースとしたスポンジ（機能性多孔質吸収体）のパイオニア企業として知られている。高い吸水性能を生かして、主に産業資材や生活資材向けに開発製造を行っている。産業資材では、主に半導体やハードディスク等の製造ライン用の洗浄・吸水材、研磨材のほか、医療用やプリンター用の吸液スポンジ、生活資材では洗車用タオルやスポーツ用タオルなどがある。また、医療分野の事業拡大を目的に 2020 年 8 月に病院向け衛生管理用品の企画開発・販売を行うアズテック（株）を子会社化している。アズテックは、特に大規模病院の手術室用モップで高いシェアを持ち、直販並びに医療製品卸会社を通じて販売している。

2025 年 3 月期の売上構成比は、産業資材が 82.4%、生活資材が 17.6% となる。また、海外売上比率は 53.5% で、特に半導体分野では台湾、韓国や米国の大手半導体メーカーを顧客に持ち、最先端プロセスの製造ライン用では米国の 1 社と市場シェアを二分するほどの競争力を持つ。直近 5 年間の営業利益率は 10% 台で安定して推移しており、なかでも付加価値の高い半導体・ハードディスク製造ライン用製品が収益源となっている。なお、海外向けに関しては円建て取引のため、為替変動の直接的な影響は受けない。

## 3. サービス事業

サービス事業は、子会社で展開する自動車整備・鈑金事業のほか、自動車教習事業、生活用品企画販売事業で構成されている。2025 年 3 月期の売上構成比は、自動車整備・鈑金が 51.0%、自動車教習が 17.9%、生活用品企画販売が 31.1% となっている。

自動車整備・鈑金事業では、（株）ソフト99オートサービスで鈑金塗装や各種コーティング施工サービスを関西 5 ヶ所、首都圏で 2 ヶ所の体制で展開している。損保会社やカーディーラー（主に輸入車）経由で入庫される事故車両などの修理や車検整備を主に行っている。同業界は中小・零細企業が多く、ここ数年は厳しい市場環境が続いたこともあり淘汰が進んでおり、業界シェアは拡大傾向にある。また、ここ数年はメイクアップ用のカーラッピングサービスや、塗装面を飛び石や虫などによるキズ・汚れから守るプロテクションフィルムの施工サービスにも注力している。

自動車教習事業は、アスモ（株）が兵庫県尼崎市で「尼崎ドライブスクール」1 校を運営している。生活用品企画販売事業については、（株）くらし企画で生活協同組合向けを中心に家庭用品・雑貨の企画販売を手掛けている。また、自社 EC サイトでの販売にも注力しており、2021 年 3 月期から PB 商品の開発販売を開始している。

ソフト99コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

#### 事業概要

#### 4. 不動産関連事業

不動産関連事業は不動産賃貸事業と SI 事業（旧 温浴事業）、介護予防支援事業が含まれる。2025 年 3 月期の売上構成比を見ると、「極楽湯」（2 店舗）を運営する SI 事業が 64.7%、不動産賃貸事業が 31.8%、介護予防支援事業が 3.5% となっている。不動産賃貸事業に関しては本社ビルと東京・秋葉原にある自社ビル等の賃貸を行っている。なお、2024 年に「極楽湯」尼崎店を閉店した跡地に、IR・インバウンド客を主要ターゲットとした和食系の飲食店モールの開発を進めており、2025 年末ごろまでに竣工予定となっている。自社店舗の出店のほかテナントを募集し賃貸収入を得る予定となっている。不動産関連事業に関しては自社保有する不動産の有効活用が目的となっているため、今後も現状の事業規模を維持する方針だ。

## 業績動向

### 2025 年 3 月期はポーラスマテリアル事業がけん引し、3 期ぶりに最高益を更新

#### 1. 2025 年 3 月期の業績概要

2025 年 3 月期の連結業績は売上高で前期比 0.4% 減の 29,742 百万円、営業利益で同 12.7% 増の 4,033 百万円、経常利益で同 11.8% 増の 4,229 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 10.7% 増の 2,913 百万円と売上高は微減となったものの、各利益は 2 期連続の増益、3 期ぶりの過去最高益を更新した。また、計画に対してそれぞれ上回って着地した。事業セグメント別で見ると、ファインケミカル事業や不動産関連事業が減収減益となったものの、ポーラスマテリアル事業、サービス事業が増収増益となり、とりわけポーラスマテリアル事業が大きく伸長し業績のけん引役となった。

#### 2025 年 3 月期連結業績

(単位：百万円)

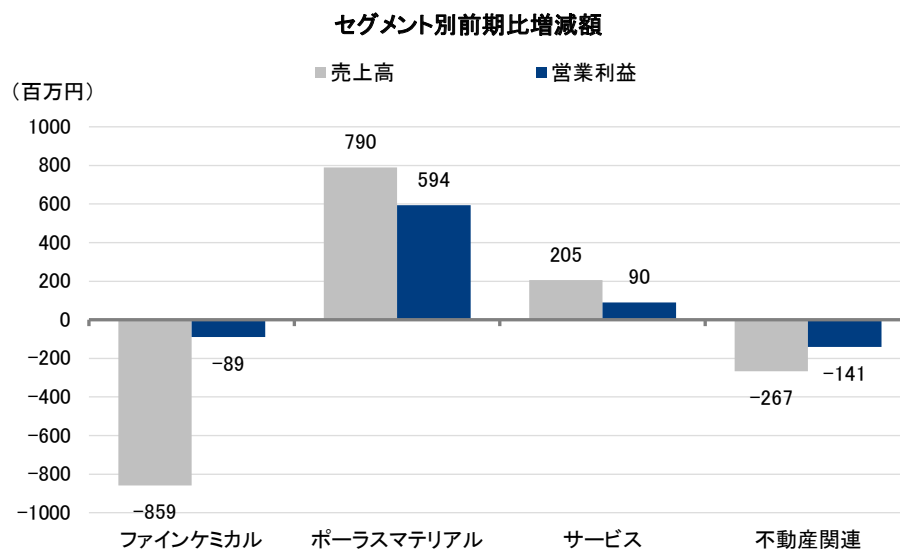
|                     | 24/3 期 |       |        | 25/3 期 |       |       |       |
|---------------------|--------|-------|--------|--------|-------|-------|-------|
|                     | 実績     | 売上比   | 計画     | 実績     | 売上比   | 前期比   | 計画比   |
| 売上高                 | 29,874 | -     | 29,300 | 29,742 | -     | -0.4% | 1.5%  |
| 売上総利益               | 10,677 | 35.7% | -      | 11,335 | 38.1% | 6.2%  | -     |
| 販管費                 | 7,098  | 23.8% | -      | 7,301  | 24.6% | 2.9%  | -     |
| 営業利益                | 3,579  | 12.0% | 3,600  | 4,033  | 13.6% | 12.7% | 12.1% |
| 経常利益                | 3,782  | 12.7% | 3,800  | 4,229  | 14.2% | 11.8% | 11.3% |
| 特別損益                | 39     | -     | -      | -26    | -     | -     | -     |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 2,631  | 8.8%  | 2,650  | 2,913  | 9.8%  | 10.7% | 10.0% |

出所：決算短信よりフィスコ作成

ソフト99コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

業績動向



出所：決算短信よりフィスコ作成

売上総利益率はファインケミカル事業でロシア向けの他社製品仲介取引から撤退したことやポラスマテリアル事業の増収効果並びに一過性の原価低減効果により前期の 35.7% から 38.1% に上昇し、売上総利益は前期比 6.2% 増、金額ベースで同 658 百万円の増益となった。販管費は新基幹システムの稼働開始（2024 年 12 月）により減価償却費で 50 百万円増加したほか、人件費が 47 百万円増、運賃及び荷造費が 41 百万円増、研究開発費が 23 百万円増等となり、全体では 203 百万円増となった。同社の基幹システムは長らく IBM の AS400 をベースに運用していたが、OS のサポート終了に伴い、汎用の ERP 製品に更新した。新基幹システムの稼働に伴い、従来は情報システム部経由でしか見なかった経営分析レポートなどが直接見れるようになったほか、業務プロセスの効率化が進むなど生産性向上に貢献するものと期待される。

## 生成 AI 市場の拡大を背景に ポラスマテリアル事業が大幅増収増益に

### 2. 事業セグメント別動向

#### (1) ファインケミカル事業

ファインケミカル事業の業績は、売上高が前期比 5.9% 減の 13,652 百万円、営業利益が同 4.6% 減の 1,837 百万円となった。売上高は海外事業のうち他社製品の仲介取引から撤退した影響が大きく減収となった。利益面では、一般消費者向け製品販売を中心に値上げが進んだことや、海外事業における自社製品の販売が増加するなど販売ミックスの変化により売上総利益は同 1.7% 増益となったものの、販管費の増加が減益要因となった。

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

業績動向

### ファインケミカル事業の業績推移

(単位：百万円)

|                | 22/3 期 | 23/3 期 | 24/3 期 | 25/3 期 | 伸び率    |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高            | 14,103 | 14,738 | 14,511 | 13,652 | -5.9%  |
| 一般用：ボディケア      | 2,117  | 2,044  | 2,166  | 1,784  | -17.6% |
| 一般用：ガラスケア      | 3,969  | 3,869  | 3,757  | 4,241  | 12.9%  |
| 一般用：リペアグッズ     | 2,466  | 2,446  | 2,351  | 2,389  | 1.6%   |
| 業務用製品          | 1,850  | 2,025  | 2,181  | 2,161  | -0.9%  |
| 家庭用品等          | 1,360  | 1,164  | 824    | 788    | -4.4%  |
| 海外事業           | 1,575  | 2,615  | 2,569  | 1,543  | -39.9% |
| TPMS の企画・開発・販売 | 217    | 161    | 238    | 249    | 4.5%   |
| 電子機器・ソフトウェア開発  | 570    | 633    | 657    | 728    | 10.9%  |
| その他            | -24    | -222   | -234   | -233   | -      |
| 営業利益           | 2,211  | 1,724  | 1,926  | 1,837  | -4.6%  |
| 営業利益率          | 15.7%  | 11.7%  | 13.3%  | 13.5%  | 0.2pp  |

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

売上高の内訳を見ると、国内一般消費者向け販売（自動車分野）のうち、ボディケア製品は前期比 17.6% 減となった。酷暑の影響で上期に洗車機会が減少したことや、前期に新発売した足回り製品「ディグロス」シリーズの販売が落ち着いたことなどが影響した。一方、ガラスケア製品は同 12.9% 増、リペア製品は同 1.6% 増といずれも増収に転じた。ガラスケア製品は、撥水剤の価格改定を実施したことやワイパー製品で店頭キャンペーンを実施したことが増収要因となった。リペア製品は一部販売先に対する商流変更（卸会社）により一時的な販売減少があった前期に対して、2025 年 3 月期は得意先への販売が堅調に推移したことや、価格改定を実施したことで若干ながら増収に転じた。なお、ガラス製品については 3 期ぶりに過去最高売上を更新した。

業務用製品（自動車・産業分野）は前期比 0.9% 減となった。中古車向け販売やコーティング以外の製品販売が伸長したものの、新車向けが上期の自動車生産台数低迷の影響により前期を下回ったことが減収要因となった。家庭用製品販売（生活分野）は同 4.4% 減と 4 期連続で減収となった。主力製品であるメガネケア製品は新たにスポーツ市場向けの撥水剤やくもり止め製品の販売を開始したものの、ドラッグストア向けの販売減少が続いた。需要のピークであった 2021 年 3 月期と比較すると 55.4% の水準まで売上は低下したが、コロナ禍前の 2020 年 3 月期の売上水準と比較すると 13.1% 上回っており、中期的に見れば新市場の開拓効果もあって売上規模は底上げされているものと考えられる。

海外事業（自動車分野）は前期比 39.9% 減となった。他社製品の仲介取引から撤退したことが要因で、自社製品については各地域で伸長し、14 億円強と過去最高売上を更新した。地域別では欧州、ブラジル向けが大きく伸長し、商材もガラスケア製品を中心にほぼすべての商材が伸長した。各地域で SNS を活用したプロモーションや展示会への出展などの取り組みを強化したことや、国別ローカライズ戦略として現地語パッケージ商品の販売を強化するなど、ここ数年取り組んできた営業活動の成果が顕在化した格好だ。そのほか TPMS の企画・開発・販売（自動車分野）は同 4.6% 増、電子機器・ソフトウェア開発は同 10.8% 増とそれぞれ増収基調が続いた。

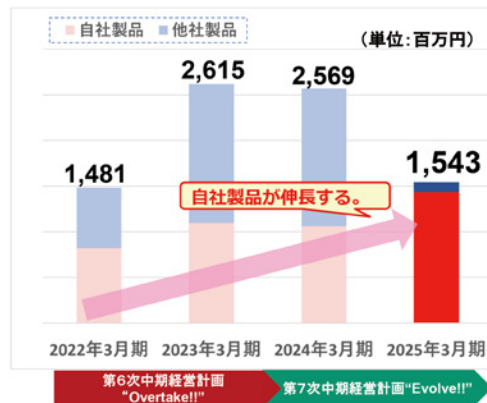
ソフト99コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

業績動向

## 海外事業の概況

### 99製品・他社製品 売上推移



出所: 決算説明会資料より掲載



## (2) ポーラスマテリアル事業

ポーラスマテリアル事業の業績は、売上高が前期比 9.5% 増の 9,094 百万円、営業利益が同 54.8% 増の 1,677 百万円となった。生成 AI の普及拡大を背景にデータセンター投資が活発化したことに伴い、AI サーバ用の先端半導体や高容量ハードディスクの需要が拡大し、製造ラインで用いられる精密洗浄用ブラシローラーやハードディスク用研磨剤の売上が伸長し、産業資材の売上が過去最高売上を大幅更新したことが増収要因となった。利益面では、販売ミックスの改善や増収効果に加えて、一過性の売上原価低減効果 (約 1.8 億円) も第 4 四半期に発生し、売上総利益率が前期の 31.5% から 35.4% に上昇したことが増益要因となった。

### ポーラスマテリアル事業の業績推移

|       | (単位: 百万円) |        |        |        |        |
|-------|-----------|--------|--------|--------|--------|
|       | 22/3 期    | 23/3 期 | 24/3 期 | 25/3 期 | 伸び率    |
| 売上高   | 7,655     | 8,554  | 8,304  | 9,094  | 9.5%   |
| 産業資材  | 6,008     | 6,791  | 6,515  | 7,495  | 15.0%  |
| 国内    | 3,046     | 1,960  | 2,044  | 2,193  | 7.3%   |
| 海外    | 2,961     | 3,454  | 3,348  | 4,293  | 28.3%  |
| 医療※   | -         | 1,377  | 1,123  | 1,009  | -10.2% |
| 生活資材  | 1,647     | 1,762  | 1,790  | 1,599  | -10.6% |
| 国内    | 889       | 962    | 1,099  | 1,026  | -6.6%  |
| 海外    | 758       | 801    | 690    | 573    | -17.0% |
| 営業利益  | 1,105     | 1,042  | 1,083  | 1,677  | 54.8%  |
| 営業利益率 | 14.4%     | 12.2%  | 13.0%  | 18.4%  | +5.4pp |

※ 医療分野に関しては 23/3 期より産業資材の内訳として開示。大半は国内売上となる

出所: 決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成



ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

#### 業績動向

売上高の内訳は、産業資材部門が前期比 15.0% 増の 7,495 百万円となり、このうち国内向けは同 7.3% 増の 2,193 百万円となった。前期に得意先の生産調整があった HDD 向けがデータセンター向けの需要増加に伴いコロナ禍前の水準まで回復したほか、フィルター及びプリンター向けも堅調に推移したことによる。一方、海外向けは同 28.2% 増の 4,293 百万円と大きく伸長した。AI サーバに搭載される最先端のロジック半導体やメモリ半導体の製造ライン向けの需要拡大が続き、韓国や台湾向けを中心に販売が好調に推移したほか、中国向けも代理店経由でローカル企業向けに増加した。米国政府が中国に対する半導体規制の強化を進めている影響で、最終顧客が競合の米国メーカーの製品から同社製品に切り替えを進めていることも増加の一因になったようだ。医療分野は同 10.2% 減の 1,009 百万円と減収傾向が続いた。コロナ禍の収束により感染症対策強化で伸びていた病院向け清掃用モップなどの需要が病院の買い控えの動きもあって減少したほか、体外検査薬フィルターなどの需要も減少した。

生活資材は前期比 10.7% 減の 1,599 百万円と減収に転じた。国内向けは、家庭用製品が前期並みの水準を維持したものの、自動車向けが新車販売低迷の影響により一般消費者向け、OEM 製品ともに低調に推移し、同 6.6% 減の 1,026 百万円となった。また、海外向けは主力仕向け地である米国の在庫調整が物価高による消費停滞の影響で長引いたことで、同 17.0% 減の 573 百万円となった。

#### (3) サービス事業

サービス事業の業績は、売上高が前期比 3.7% 増の 5,721 百万円、営業利益が同 49.4% 増の 273 百万円となった。自動車整備・鈑金事業の売上が同 8.2% 増の 2,920 百万円と 2 期連続で過去最高を更新したことが増収増益要因となった。コロナ禍の収束によるドライブ需要の増加並びに鈑金業界の淘汰が進むなかで業界シェアも拡大しており、事故車の入庫台数が増加したほか、人件費等の経費高騰を背景に、受注単価の見直しも進んだ。

#### サービス事業の業績推移

(単位：百万円)

|          | 22/3 期 | 23/3 期 | 24/3 期 | 25/3 期 | 伸び率    |
|----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高      | 5,428  | 5,455  | 5,516  | 5,721  | 3.7%   |
| 自動車整備・鈑金 | 2,384  | 2,511  | 2,698  | 2,920  | 8.2%   |
| 自動車教習    | 1,029  | 1,013  | 1,021  | 1,022  | 0.1%   |
| 生活用品企画販売 | 2,015  | 1,929  | 1,796  | 1,778  | -1.0%  |
| 営業利益     | 200    | 226    | 183    | 273    | 49.4%  |
| 営業利益率    | 3.7%   | 4.2%   | 3.3%   | 4.8%   | +1.5pp |

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

#### (4) 不動産関連事業

不動産関連事業の業績は、売上高が前期比 17.4% 減の 1,274 百万円、営業利益が同 37.8% 減の 233 百万円となった。SI 事業（旧 温浴事業）で展開していた「極楽湯」3 店舗のうち、尼崎店を 2024 年 3 月末に閉店したことが減収減益要因となった。跡地には現在、IR やインバウンド客を主要ターゲットにした飲食店モールを建設中となっており、2025 年 10 ～ 12 月ごろの竣工予定となっている。

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

業績動向

### 不動産関連事業の業績推移

(単位：百万円)

|                | 22/3 期 | 23/3 期 | 24/3 期 | 25/3 期 | 伸び率    |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 売上高            | 1,247  | 1,422  | 1,542  | 1,274  | -17.4% |
| SI 事業 (旧 温浴事業) | 780    | 971    | 1,093  | 824    | -24.6% |
| 不動産賃貸          | 428    | 414    | 411    | 405    | -1.5%  |
| 介護予防支援         | 38     | 36     | 37     | 44     | 21.5%  |
| 営業利益           | 233    | 251    | 375    | 233    | -37.8% |
| 営業利益率          | 18.7%  | 17.7%  | 24.3%  | 18.3%  | -6.0pp |

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

## ネットキャッシュは 200 億円超と潤沢、収益性指標も 2 期連続で上昇

### 3. 財務状況と経営指標

2025 年 3 月期末の資産合計は、前期末比 2,092 百万円増加の 64,635 百万円となった。主な変動要因を見ると、流動資産では現金及び預金・有価証券が 578 百万円、売上債権が 68 百万円それぞれ増加した。固定資産では有形固定資産が 113 百万円増加したほか、ファインケミカルセグメントにおける新基幹システムの導入によって無形固定資産が 316 百万円増加した。また、有価証券の償還及び再投資や保有株式の含み益増加等により投資有価証券が 1,023 百万円増加した。

負債合計は前期末比 147 百万円増加の 8,062 百万円となった。有利子負債が 105 百万円、未払金及び未払費用が 32 百万円それぞれ減少した一方で、未払法人税等が 61 百万円増加したほか、株式市場の好調を受け繰延税金負債が 98 百万円増加した。また、純資産は同 1,944 百万円増加の 56,572 百万円となった。利益剰余金が 1,989 百万円増加したほか、自己株式の取得により自己株式が 154 百万円増加（減少要因）した。

経営指標を見ると、安全性を示す自己資本比率は 87.5% と高水準を維持しており、実質無借金経営でネットキャッシュも 222 億円と潤沢にあることから、財務基盤は健全な状態にあると言える。また、収益性に関しては売上高営業利益率で 13.6%、ROIC で 8.6%、ROE で 5.2% といずれも 2 期連続で上昇し、中期経営計画の目標水準（売上高営業利益率 11.9%、ROIC 8.1%、ROE 4.9%）をいずれもクリアした。ポーラスマテリアル事業の拡大により利益率が上昇したことに加えて、資本コストを意識した経営により自己株式を取得するなど株主資本の最適化に取り組んだことが奏功したものと見られる。ただ、同社の株式時価総額は 350 億円程度で純資産の 6 割程度の水準に留まっており、これは ROE の水準が同社の想定する資本コスト（5.5 ～ 6.0% 程度）を下回っていることが一因と考えられる。ROE の向上をさらに進めるためには、保有する潤沢な資金（現金及び預金、有価証券並びに投資有価証券で約 303 億円）を、M&A も含めて成長性が見込める事業あるいは高付加価値が見込める製品・サービスに投下し ROIC を引き上げていくこと、また資本効率性の観点から自己株式取得など株式還元を充実させていくことがポイントになると弊社では見ている。

ソフト９９コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

業績動向

### 連結貸借対照表

(単位：百万円)

|               | 21/3 期 | 22/3 期 | 23/3 期 | 24/3 期 | 25/3 期 | 増減     |
|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 流動資産          | 27,950 | 29,330 | 29,990 | 31,673 | 32,275 | 602    |
| （現金及び預金、有価証券） | 19,771 | 20,497 | 20,124 | 21,768 | 22,347 | 578    |
| 固定資産          | 29,336 | 29,900 | 30,386 | 30,869 | 32,359 | 1,489  |
| 総資産           | 57,286 | 59,231 | 60,377 | 62,542 | 64,635 | 2,092  |
| 流動負債          | 4,229  | 4,643  | 4,176  | 4,328  | 4,588  | 260    |
| 固定負債          | 3,181  | 3,196  | 3,428  | 3,587  | 3,473  | -113   |
| 負債合計          | 7,411  | 7,839  | 7,604  | 7,915  | 8,062  | 147    |
| （有利子負債）       | 46     | -      | 295    | 190    | 85     | -105   |
| 純資産合計         | 49,874 | 51,391 | 52,772 | 54,627 | 56,572 | 1,944  |
| (安全性)         |        |        |        |        |        |        |
| 自己資本比率        | 87.1%  | 86.8%  | 87.4%  | 87.3%  | 87.5%  | 0.2pp  |
| 有利子負債比率       | 0.0%   | -      | 0.5%   | 0.3%   | 0.2%   | -0.2pp |
| ネットキャッシュ      | 19,725 | 20,497 | 19,828 | 21,577 | 22,261 | 683    |
| (収益性)         |        |        |        |        |        |        |
| ROIC          | 7.7%   | 8.7%   | 7.1%   | 7.7%   | 8.6%   | 0.9pp  |
| ROE           | 3.1%   | 5.4%   | 4.0%   | 4.9%   | 5.2%   | 0.3pp  |
| 売上高営業利益率      | 12.0%  | 13.2%  | 10.8%  | 12.0%  | 13.6%  | 1.6pp  |
| (ROE 分解)      |        |        |        |        |        |        |
| 総資産売上回転率 (回)  | 0.47   | 0.48   | 0.50   | 0.48   | 0.46   | -0.02  |
| 財務レバレッジ (倍)   | 1.15   | 1.15   | 1.14   | 1.14   | 1.14   | 0.00   |
| 売上高純利益率       | 5.7%   | 9.7%   | 6.8%   | 8.8%   | 9.8%   | 1.0pp  |

注：ROIC= 税引後営業利益 ÷ 事業投下資本

出所：決算短信、有価証券報告書、決算説明会資料よりフィスコ作成



ソフト99コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

## ■ 今後の見通し

### 2026 年 3 月期は先行投資や一過性の原価低減効果はく落で減益見込みだが保守的な印象

#### 1. 2026 年 3 月期の業績見通し

2026 年 3 月期の連結業績は、売上高で前期比 1.9% 増の 30,300 百万円、営業利益で同 10.0% 減の 3,630 百万円、経常利益で同 9.7% 減の 3,820 百万円、親会社株主に帰属する当期純利益で同 13.5% 減の 2,520 百万円を計画している。売上高については、ファインケミカル事業の一般消費者向け製品販売とポーラスマテリアル事業の産業資材販売の伸長を見込んでおり、その他の分野についてはおおむね前期並みの水準を想定している。一方、利益面ではファインケミカル事業における新基幹システム導入に伴う減価償却費等の増加で 2 億円、一般消費者向け製品販売の広告宣伝費用の増加で 1 億円強のコスト増を見込むほか、ポーラスマテリアル事業における一過性の原価低減効果はく落（1.8 億円）が減益要因となる。ただ、同社は計画について保守的に出す傾向が強く、今後自動車や半導体の市場環境が大きく悪化するようなことがなければ、計画を上回る可能性が高いと弊社では見ている。

#### 2026 年 3 月期連結業績見通し

(単位：百万円)

|                     | 25/3 期 |       | 26/3 期 |        |        |       |        |
|---------------------|--------|-------|--------|--------|--------|-------|--------|
|                     | 実績     | 売上比   | 上期計画   | 前年同期比  | 通期計画   | 売上比   | 前期比    |
| 売上高                 | 29,742 | -     | 14,800 | 2.7%   | 30,300 | -     | 1.9%   |
| 営業利益                | 4,033  | 13.6% | 1,520  | -16.3% | 3,630  | 12.0% | -10.0% |
| 経常利益                | 4,229  | 14.2% | 1,620  | -15.2% | 3,820  | 12.6% | -9.7%  |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 2,913  | 9.8%  | 1,040  | -18.5% | 2,520  | 8.3%  | -13.5% |
| 1 株当たり当期純利益 (円)     | 135.18 |       | 48.35  |        | 117.17 |       |        |

出所：決算短信よりフィスコ作成

#### (1) ファインケミカル事業

ファインケミカル事業の売上高は前期比 3.3% 増の 14,100 百万円、営業利益は同 8.0% 減の 1,690 百万円を計画している。売上高は前期に低迷した一般消費者向けボディケア製品で広告宣伝費用を投下し 1.5 億円の増収を見込むほか、家庭用製品等も主力のメガネケア製品についてスポーツ市場向けの開拓に加えて、新たにホテルや温浴施設、フィットネスジム向けにアメニティグッズとしての販売を開始する予定で 1.8 億円の増収を見込む。家庭用製品等は従来、ドラッグストア向けを主要市場として展開してきたが、スポーツ専門店やホテルなど新たな販路を開拓することでさらなる成長を目指す。

また、海外事業については、自社製品の拡大により 1 億円の増収を見込む。SNS を活用したプロモーション展開によりブランドの認知度も高まっている。最近ではアフリカ市場にも徐々に進出しており、販売地域の拡大も進めながら売上規模を拡大する方針だ。国内の一般消費者向け製品販売が 80 億円を超える売上規模であるのに対して、海外事業は 15 億円程度に留まっており、成長余地は大きいと弊社では見ている。

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

今後の見通し

### (2) ポーラスマテリアル事業

ポーラスマテリアル事業の売上高は前期比 0.8% 増の 9,170 百万円、営業利益は同 10.6% 減の 1,500 百万円を計画している。売上高については産業資材、生活資材ともに若干の増収を見込む。産業資材のうち半導体業界向け製品については、現在 2 直体制でフル稼働の状況が続いており、足元の受注も翳りは見えておらず 2026 年 3 月期も高水準の売上が続く見通しだ。人的リソースの面から生産能力はほぼ上限に近い状況であり、設備能力の増強を検討する必要があるが出てきているが、AI 関連の半導体需要の先行きをもう少し見極めたうえで判断するとしている。一方、生活資材については前期に低迷していた国内 OEM 製品の回復を見込んでいる。

### (3) サービス事業・不動産関連事業

サービス事業及び不動産関連事業の売上高は前期比 0.5% 増の 7,030 百万円、営業利益は同 13.3% 減の 440 百万円を計画している。自動車整備・鍍金事業や SI 事業を中心に売上は堅調に推移する見通しだ。SI 事業で現在建設中の飲食店モールは 2025 年 10 ～ 12 月に竣工予定で、店舗収入のほか賃貸収入が見込まれるが、業績計画には織り込んでいない。

## 海外向けカー用品と半導体製造ライン用産業資材の今後の成長に期待

### 2. 中期経営計画の進捗状況

#### (1) 中期計画の概要と経営数値目標

同社は 2024 年 3 月期から第 7 次中期経営計画（2024 年 3 月期～ 2026 年 3 月期）をスタートしている。「Evolve！！～進化せよ！！～」をテーマに掲げ、デジタルを活用し、心揺さぶられるアナログ的（エモイ）価値を創り出す『ヒト（人財）』を育て、その価値を通して社会課題の解決に貢献することを目指している。重点施策として「価値提供方法の多様化」「海外展開強化」「医療分野強化」の 3 点に取り組み、積極的な投資と併せて「デジタルの活用」による高付加価値製品・サービスの提供により、利益成長と資本効率の改善を目指す戦略を推進している。

最終年度となる 2026 年 3 月期の業績目標として、売上高 31,700 百万円、営業利益 3,780 百万円を掲げているが、既述のとおり売上高は 30,300 百万円、営業利益は 3,630 百万円とそれぞれ 1,400 百万円、150 百万円引き下げた。2025 年 3 月期まではポーラスマテリアル事業をけん引役として計画を上回る進捗であったが、ファインケミカル事業の伸び悩みにより見通しを引き下げた格好だ。2026 年 3 月期の事業セグメント別目標と直近の計画との差異要因は以下のとおりである。

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

今後の見通し

### 中期経営計画数値目標

(単位：百万円)

|                     | 23/3 期<br>実績 | 24/3 期<br>実績 | 25/3 期<br>実績 | 26/3 期 |        | 当初目標との<br>差異 | 年平均<br>成長率※ |
|---------------------|--------------|--------------|--------------|--------|--------|--------------|-------------|
|                     |              |              |              | 目標     | 計画     |              |             |
| 売上高                 | 30,170       | 29,874       | 29,742       | 31,700 | 30,300 | -1,400       | 0.1%        |
| 営業利益                | 3,256        | 3,579        | 4,033        | 3,780  | 3,630  | -150         | 3.7%        |
| 営業利益率               | 10.8%        | 12.0%        | 13.6%        | 11.9%  | 12.0%  | 0.1pp        | +1.2pp      |
| 親会社株主に帰属する<br>当期純利益 | 2,063        | 2,631        | 2,913        | -      | 2,520  |              | 6.9%        |
| ROIC                | 7.1%         | 7.7%         | 8.6%         | 8.1%   | 7.6%   | -0.5pp       |             |
| ROA                 | 5.8%         | 6.2%         | 6.7%         | 6.1%   | 5.8%   | -0.3pp       |             |
| ROE                 | 4.0%         | 4.9%         | 5.2%         | 4.9%   | 4.4%   | -0.5pp       |             |

※ 2024 年 3 月期以降 3 年間の年平均成長率

出所：決算短信、決算説明会資料等よりフィスコ作成

### 事業セグメント別数値目標

(単位：百万円)

|              | 23/3 期<br>実績 | 24/3 期<br>実績 | 25/3 期<br>実績 | 26/3 期 |        | 当初目標との<br>差異 | 年平均<br>成長率※ |
|--------------|--------------|--------------|--------------|--------|--------|--------------|-------------|
|              |              |              |              | 目標     | 計画     |              |             |
| ファインケミカル事業   |              |              |              |        |        |              |             |
| 売上高          | 14,738       | 14,511       | 13,652       | 15,650 | 14,100 | -1,550       | -1.5%       |
| 営業利益         | 1,724        | 1,926        | 1,837        | 2,600  | 1,690  | -910         | -0.7%       |
| 営業利益率        | 11.7%        | 13.3%        | 13.5%        | 16.6%  | 12.0%  | -4.6pp       | +0.3pp      |
| ポリラスマテリアル事業  |              |              |              |        |        |              |             |
| 売上高          | 8,554        | 8,304        | 9,094        | 9,200  | 9,170  | -30          | 2.3%        |
| 営業利益         | 1,042        | 1,083        | 1,677        | 830    | 1,500  | 670          | 12.9%       |
| 営業利益率        | 12.2%        | 13.0%        | 18.4%        | 9.0%   | 16.4%  | 7.3pp        | +4.2pp      |
| サービス・不動産関連事業 |              |              |              |        |        |              |             |
| 売上高          | 6,877        | 7,058        | 6,995        | 6,850  | 7,030  | 180          | 0.7%        |
| 営業利益         | 478          | 558          | 507          | 350    | 440    | 90           | -2.7%       |
| 営業利益率        | 7.0%         | 7.9%         | 7.3%         | 5.1%   | 6.3%   | 1.1pp        | -0.7pp      |

※ 2024 年 3 月期以降 3 年間の年平均成長率

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

## (2) ファインケミカル事業

ファインケミカル事業の業績は売上高で 1,550 百万円、営業利益で 910 百万円引き下げ、2023 年 3 月期とほぼ同水準となる見通しだ。売上高は海外向け他社製品の仲介取引から撤退したこと（2025 年 3 月期の売上規模は約 15 億円）や家庭用製品の苦戦が続いていること、また利益面では一般消費者向け製品販売の強化に伴う広告宣伝費の増加を見込んでいることが主な下振れ要因となる。なお、海外向け他社製品の仲介取引を除いたベースでは、売上高は年率 2.4% 成長となる見込みだ。

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

今後の見通し

業績数値だけを見ると芳しくないように見えるが、同社が重点施策として取り組んでいる「価値提供方法の多様化」や「海外展開強化」については着実に進んでおり、今後の成長に向けた事業基盤の強化が着々と進んでいるものと弊社では評価している。「価値提供方法の多様化」として、デジタル技術を活用した付加価値サービスの提供に取り組んでいる。具体例として、2024 年 11 月にオープンしたキャッシュレス型洗車場「ALAUDAY」が挙げられる。同洗車場は屋根付き個室ブースを時間貸しするサービスで、洗車ブースのゲート解除から利用終了、支払決済まですべてスマートフォンアプリで完結するサービスである。

サービス料金は 30 分で 1,650 円と通常のコイン洗車場の顧客単価が 300 ～ 700 円程度であるのに対して、高価格設定となっている。ただ、時間内であれば洗浄設備や清掃設備などは使い放題であり、車の愛好家で洗車にこだわりを持つ顧客層をターゲットとしている点が特徴だ。このため、1 回の利用で 2 ～ 3 時間かけて洗車をするユーザーも少なくないと言う。1 号店では 6 台分のブースを整備しており、2025 年 4 月に月間売上で過去最高を更新するなど徐々に客数も増加しているようだ。当面はスマートフォンアプリの改修や機能強化も含めてビジネスモデルの確立に取り組む方針で、将来的には FC 展開を目指す。加盟企業としてはカー用品専門店やホームセンターなどを想定しており、集客ソリューションの 1 つとして洗車サービスの導入を提案していく。「ALAUDAY」の店舗が拡大していけば、洗車・清掃時に使用する自社製品の売上が拡大する可能性があるほか、「ALAUDAY」の会員に対して自動車钣金・美装サービスなどグループ内の他のサービスを紹介しグループシナジーを創出することも可能になるため、今後の動向が注目される。

#### 「ALAUDAY」の設備

##### 屋根付き個室ブース



出所：同社ホームページより掲載

##### 洗車用純水設備



##### 休憩スペース



「海外展開強化」としては、各進出地域の現地語にあわせたパッケージ製品や専売品の販売強化に加えて、SNS を活用したプロモーション戦略を現地代理店などと協業しながら進めており、これらの成果により海外向け自社製品の売上高は 2023 年 3 月期の約 10 億円から 2025 年 3 月期は約 14 億円へと伸長した。今後は既存エリアにおけるさらなる拡販を進めていくほか、アフリカや米国市場の開拓も視野に入れている。アフリカについては徐々に売上実績も出始めている。米国市場については現地メーカーが強いこともあり、新規参入が容易ではないが代理店を活用しながら時間をかけて開拓していく考えだ。

そのほかトピックスとして、2025 年 3 月に KeePer 技研が同社株式の 12.38% を取得したことを発表した。現在、KeePer 技研とはカー用品に関する調達・開発・販売においてシナジーを最大化するための協議を進めている段階にある。コーティング剤については競合関係にあるため、すぐに協業する可能性は低いと見られるが、洗車用品などその他のカー用品については、OEM 販売なども含めて比較的早期に協業に発展する可能性があり、同社にとっては販路が広がることで売上を拡大できる好機となる。

ソフト99コーポレーション

4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)

<https://www.soft99.co.jp/ir/>

今後の見通し

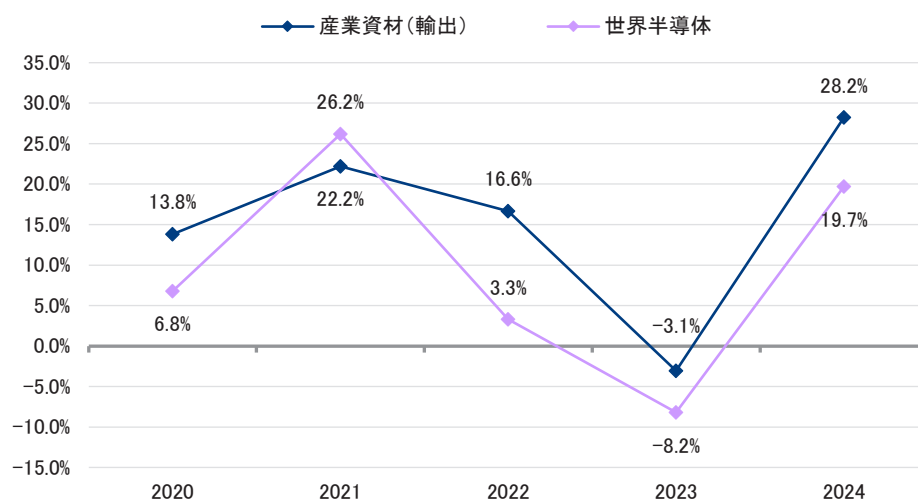
### (3) ポーラスマテリアル事業

ポーラスマテリアル事業の業績は当初目標に対して売上高を 30 百万円引き下げたものの、営業利益は 670 百万円増額した。売上高は半導体向け製品が想定を上回るペースで伸びているものの、医療分野の下振れが減額要因となっている。経営環境が厳しくコスト削減に取り組む医療施設が増えるなかで、アズテックの商材に関して買い控えが生じていること、また、3 年間で 4 件の受注を計画していた医療施設向け焼却炉の仕入販売も 1 件に留まる見込みとなったことが要因だ。ただ、利益面では販売ミックスの改善や、工場の稼働率が高水準で推移していることによる原価率の改善により、当初目標を大幅に上回る見込みである。

当面は半導体製造の洗浄工程で用いられるブラシローラーがけん引するものと見られる。PVA スポンジの特徴である多孔質構造による高い吸水能力と弾力性、耐摩耗性を持つ同社のブラシローラーは、サブミクロンレベルの微細なパーティクルを効率的に除去する突起形状で設計されており、先端半導体向けでは米企業とシェアを二分している。主に台湾の大手ファウンドリーメーカーや韓国のメモリメーカー向けに伸びているが、日本でも Rapidus (株) が 2027 年度に 2nm 世代の最先端半導体の量産開始に向けた準備を進めており、今後の需要増加が見込まれる。さらには、中国向けについても既述のとおり米中摩擦が続くなかで、シェアを拡大する好機と見られる。

2020 年以降の世界半導体出荷額と同社の産業資材 (輸出) 売上高の成長率を見ると相関が高く、4 年間の年平均成長率では世界半導体出荷額が 9.4% 成長であったのに対して、産業資材 (輸出) の売上高は 15.4% であった。この間の成長率の差は、同社が高シェアを握る生成 AI 向け先端半導体の急成長が主因と思われる。世界の半導体市場は中期的に年率 8% 前後の市場成長が見込まれているが、先端分野の半導体については今後も同等以上の伸びが期待でき、同社製品も市場シェアの維持を前提に年率 10% 前後の成長が続く可能性は十分にあると弊社では見ている。

世界半導体出荷額と産業資材 (輸出) 売上高の成長率



注：世界半導体出荷額は暦年、産業資材 (輸出) は年度ベース  
出所：決算説明会資料、WSTS (世界半導体市場統計) よりフィスコ作成



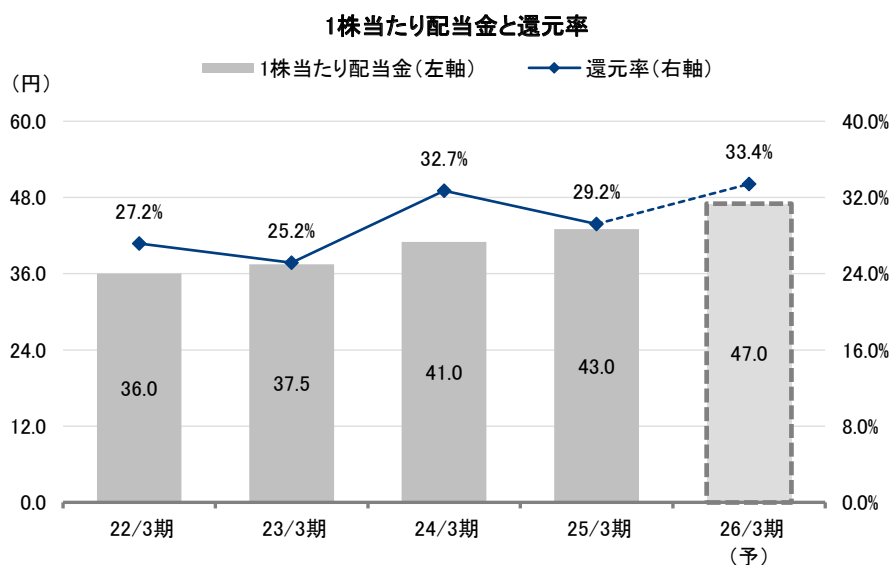
ソフト99コーポレーション  
4464 東証スタンダード市場

2025 年 7 月 14 日 (月)  
<https://www.soft99.co.jp/ir/>

## 株主還元策

### 2026 年 3 月期は 11 期連続増配を予定、自己株式取得枠も残す

株主還元方針については、2021 年 3 月期より連結営業利益の 25% を目安に「安定的かつ継続的な配当」を基本として配当を実施してきた。同方針に基づき、2025 年 3 月期の 1 株当たり配当金は前期比 2.0 円増配となる 43.0 円を実施した。2026 年 3 月期は同 4.0 円増配の 47.0 円と 11 期連続の増配を行う予定だ。また、資本効率の改善施策として、2026 年 3 月期までの 3 年間で 700 百万円程度の自己株式取得を行う方針を示しており、既に 2025 年 4 月までに 572 百万円の自己株式取得を実施した。残り 128 百万円程度については 2026 年 3 月期中に行う可能性がある。なお、配当金と自己株式取得をあわせた営業利益に対する還元率は 2025 年 3 月期で 29.2%、2026 年 3 月期で 33.4% となる。同社の 1 株当たり純資産は 2025 年 3 月期末で 2,630.29 円、PBR は約 0.6 倍と純資産価値を割れた状況が長く続いているが、今後も収益の拡大や資本効率の改善、株主還元の充実に取り組むことで PBR1 倍割れの早期解消を目指す考えだ。株主還元策として株主優待制度も導入しており、毎年 3 月末の株主に対して、保有株数に応じた自社製品・サービスの提供を実施している。



注：還元率 = (配当金総額 + 自己株式取得額) ÷ 連結営業利益

出所：決算短信、決算説明会資料よりフィスコ作成

#### 株主優待制度

|        | 100 株以上 200 株未満                | 200 株以上 500 株未満 | 500 株以上 1,000 株未満 | 1,000 株以上             |
|--------|--------------------------------|-----------------|-------------------|-----------------------|
| 同社指定製品 | 同社指定製品 + 同社及びグループ会社の製品・サービス、寄付 |                 |                   | 同社及びグループ会社の製品・サービス、寄付 |
|        | 5 コースから 1 コース選択                |                 |                   | 5 コースから 3 コース選択       |

注：3 月末の保有株主を対象

出所：同社ホームページよりフィスコ作成

#### 重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

#### ■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp